Eutypa lata に関する
病害虫リスクアナリシス報告書

令和6年2月19日 改訂

農林水産省横浜植物防疫所

主な改訂履歴及び内容

- 平成 28 (2016) 年 3 月 25 日 作成
- 令和 2 (2020) 年 3 月 25 日 宿主植物の追加 (サリックス・マクロナタ)
- 令和 3 (2021) 年 2 月 3 日 宿主植物の追加 (ザクロ)
- 令和 4 (2022) 年 12 月 1 日 発生国の追加 (チリ)
- 令和 6 (2024) 年 2 月 19 日 発生国の追加 (オランダ及びチェコ)

目次

はじめに.....	1
I リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報（有害植物）.....	1
1. 学名及び分類.....	1
2. 地理的分布.....	1
3. 宿主植物及び日本国内での分布.....	2
4. 感染部位及びその症状.....	3
5. 移動分散方法.....	3
6. 生態.....	4
7. 媒介性又は被媒介性.....	4
8. 被害の程度.....	4
9. 防除.....	4
10. 診断、検出及び同定.....	4
11. 日本における輸入検疫措置.....	5
12. 諸外国における輸入検疫措置.....	5
II 病害虫リスクアナリシスの結果.....	6
第1 開始（ステージ1）.....	6
1. 開始.....	6
2. 対象となる有害動植物.....	6
3. 対象となる経路.....	6
4. 対象となる地域.....	6
5. 開始の結論.....	6
第2 病害虫リスク評価（ステージ2）.....	7
1. 有害動植物の類別.....	7
2. 農業生産等への影響の評価.....	7
3. 入り込みの可能性の評価.....	9
4. <i>Eutypa lata</i> の病害虫リスク評価の結論.....	11
第3 病害虫リスク管理（ステージ3）.....	13
1. <i>Eutypa lata</i> に対するリスク管理措置の選択肢の検討.....	13
2. 経路ごとの <i>Eutypa lata</i> に対するリスク管理措置の選択肢の検討.....	16
3. <i>Eutypa lata</i> の病害虫リスク管理の結論.....	17
別紙1 <i>Eutypa lata</i> の発生国等の根拠.....	22
別紙2 <i>Eutypa lata</i> の宿主植物の根拠.....	24
別紙3 <i>Eutypa lata</i> の宿主植物に関連する経路の年間輸入検査量（貨物、郵便物及び携帯品）.....	33
引用文献.....	54

はじめに

Eutypa lata は、ブドウやアンズ等に枝枯れや立ち枯れを引き起こす糸状菌である。本菌の発生により、アメリカ合衆国カリフォルニア州ではブドウ、アンズ及びサクランボが、フランス及びイタリアではブドウが、オーストラリア及びトルコではアンズが影響を受けており、アメリカ合衆国ミシガン州のブドウでは、重度に発病した園地で 80%、中程度の園地で 35%の収量の減少が報告されている (CABI, 2023)。

日本においては、本菌は植物防疫法施行規則 (農林省, 1950) 別表 1 に規定されている検疫有害植物であり、同施行規則別表 1 の 2 に規定されている国又は地域からの該当する宿主植物の栽植用植物の輸入については、輸出国での栽培地検査を要求しており、

今般、本菌の発生国に関する新たな情報が得られたことから、改めて本菌に対するリスク評価を実施し、現行の検疫措置の有効性を評価するため、病害虫リスクアナリシスを実施した。

I リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報 (有害植物)

1. 学名及び分類

(1) 学名 (Index Fungorum, 2023)

Eutypa lata (Pers.) Tul. & C. Tul.

(2) 英名、和名等 (CABI, 2023; EPPO, 2023)

Eutypa dieback

dead-arm disease of grapevine

dieback disease of apricot

dieback of grapevine

gummosis of apricot

limb dieback of apricot

(3) 分類 (Index Fungorum, 2023)

種類：菌類

科：Diatrypaceae

属：*Eutypa*

(4) シノニム (EPPO, 2023)

Cytosporina lata Höhnelt

Cytosporina ribis Magnus

Cytosporina rubescens Fries

Eutypa armeniaca Hansford & M. V. Carter

Libertella blepharis A. L. Smith

Phomopsis ribis (Magnus) Grove

Sphaeria lata Persoon

(5) 系統等

情報なし。

2. 地理的分布

(1) 国又は地域 (詳細は別紙 1 参照。下線部は令和 6 (2024) 年 2 月 19 日改訂時に追加。)

アジア：インド、パキスタン

中東：イスラエル、トルコ、レバノン

欧州：アイルランド、イタリア、ウクライナ、英国、オーストリア、オランダ、キプロス、ギリシャ、スイス、スペイン、スロバキア、セルビア、チェコ、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フランス、ブルガリア、ポルトガル、モルドバ、ルーマニア

アフリカ：アルジェリア、南アフリカ共和国、リビア

北米：アメリカ合衆国、カナダ

中南米：チリ、ブラジル、ベネズエラ、メキシコ

大洋州：オーストラリア、ニュージーランド

(2) 生物地理区

本菌は、旧北区、エチオピア区、新北区、東洋区、新熱帯区、オーストラリア区及び南極区の計7区に分布する。

3. 宿主植物及び日本国内での分布

(1) 宿主植物（詳細は別紙2参照）

ウコギ科：セイヨウキヅタ (*Hedera helix*)

ウルシ科：アカツユ (*Schinus terebinthifolius*)、コショウボク (*S. molle*)、テレピンノキ (*Pistacia terebinthus*)、ピスタキア・レンティスクス (*P. lentiscus*)、ピスタシオノキ (*P. vera*)

カエデ科：コブカエデ (*Acer campestre*)、ヒロハカエデ (*A. macrophyllum*)

カキノキ科：カキ (*Diospyros kaki*)

カバノキ科：セイヨウシデ (*Carpinus betulus*)、セイヨウハシバミ (*Corylus avellana*)

キョウチクトウ科：セイヨウキョウチクトウ (*Nerium oleander*)

ギョリュウ科：ギョリュウ属 (*Tamarix*)

クマツヅラ科：グメリナ・ライヒハルディ (*Gmelina leichhardtii*)、ランタナ (*Lantana camara*)

クルミ科：ペルシャグルミ (*Juglans regia*)

クロウメモドキ科：クロウメモドキ属 (*Rhamnus*)、ケアノツス属 (*Ceanothus*)

クワ科：イチジク (*Ficus carica*)

ザクロ科：ザクロ (*Punica granatum*)

シナノキ科：コバノシナノキ (*Tilia cordata*)、ナツボダイジュ (*T. platyphyllos*)

スイカズラ科：シンフォリカルポス・オルビクラツス (*Symphoricarpos orbiculatus*)、セイヨウニワトコ (*Sambucus nigra*)、ロニケラ・アルピゲナ (*Lonicera alpigena*)、ロニケラ・クシロステウム (*L. xylosteum*)、ガマズミ属 (*Viburnum*)

スズカケノキ科：モミジバスズカケノキ (*Platanus acerifolia*)

ツツジ科：アルクトスタフィロス・スタンフォードiana (*Arctostaphylos stanfordiana*)

トチノキ科：アエスクルス・カリフォルニカ (*Aesculus californica*)

トベラ科：シマトベラ (*Pittosporum undulatum*)

ニレ科：セイヨウハルニレ (*Ulmus glabra*(=*U. scabra*))

バラ科：クサボケ (*Chaenomeles japonica*(=*Choenomeles. japonica*))、セイヨウナシ (*Pyrus communis*)、ソルブス・アリア (*Sorbus aria*)、ビワ (*Eriobotrya japonica*)、マルメロ (*Cydonia oblonga*)、ヨーロツパナナカマド (*S. aucuparia*)、サクラ属 (*Prunus*)、サンザシ属 (*Crataegus*)、シャリントウ属 (*Cotoneaster*)、バラ属

(*Rosa*)、リンゴ属 (*Malus*)

ブドウ科：キッスス・ヒポグラウカ (*Cissus hypoglauca*)、ブドウ属 (*Vitis*)

ブナ科：ヨーロッパブナ (*Fagus sylvatica*)、コナラ属 (*Quercus*)

マメ科：フサアカシア (*Acacia dealbata*)、ヒトツバエニシダ属 (*Genista*)

ミカン科：ショウジア・テルナタ (*Choisya ternata*)、レモン (*Citrus limon*)

ミズキ科：ミズキ属 (*Comus*)

メギ科：ベルベリス・ダーウィニー (*Berberis darwinii*)

モクセイ科：ウンナンオウバイ (*Jasminum mesnyi*)、オリーブ (*Olea europaea*)、セイヨウトネリコ (*Fraxinus excelsior*)、ムラサキハシドイ (*Syringa vulgaris*)、ヨウシュイボタ (*Ligustrum vulgare*)

ヤナギ科：サリックス・カプレア (*Salix caprea*)、サリックス・マクロナタ (*S. mucronata*)、サリックス・ラシオレピス (*S. lasiolepis*)、セイヨウハコヤナギ (*Populus nigra* var. *italica* (= *P. italica*))

ユキノシタ科：スグリ属 (*Ribes*)

(2) 日本国内における宿主植物の分布及び栽培状況

本菌の宿主植物であるブドウ属は 47 都道府県で栽培されている。

4. 感染部位及びその症状

本菌は、葉、枝、つるや樹木に感染し、樹内で長く生存する。宿主植物から分離されたいずれの菌株も、ブドウやアンズに対し病原性を持つ (CABI, 2023)。

ブドウでは、感染後 2～3 年間は症状が現れず、6 年以上症状が現れない場合もある。症状は、樹齢 10 年以上のブドウのつるで広く発生し、初期症状は、芽の発育不全、春に健康な芽が 20～40cm になったときに現れる。感染した芽は通常の半分の長さにもならず、小さなカップ状の葉となる。師部や木部組織にかいようができ、かいよう症状の周りに条斑や斑点を示す。かいよう症状はやがて幹に達し、つる全体が立ち枯れを起こす (CABI, 2023; Rolshausen et al., 2007)。ブドウでは果実に症状は現れないが、感染した枝からは果粒の大きさが不揃いな房が生じることがある (Hilton and Mollov, 2012)。

アンズでは、ブドウより早く、約 18 か月で症状が現れる。夏季に葉の萎縮、枯れが発生し、その後枝枯れが生じ、枯れた枝の基部にかいようが生じる。かいようからはガム状の物質が生成される (CABI, 2023)。

本菌は多年生樹木種の植物体内でしか増殖せず、徐々に植物組織に定着していく。症状は最終的に感染枝から伸びた新芽に現れる。感染植物の組織又は植物全体が枯死するまで症状が進展する (CABI, 2023)。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

本菌の自然分散には子のう胞子が重要な役割を果たしていると考えられており、枯死した樹木に形成された子のう殻から飛散した子のう胞子によって風媒伝搬する。湿潤環境下では子座を伴う子のう殻から子のう胞子の放出が誘発される。放出は気温 10～35℃で起こる。子のう胞子は長距離飛散が可能であり、胞子が 50km 以上の長距離飛散することによって、乾燥地域でも本菌が発生しているものと考えられている。オーストラリアやアメリカ合衆国カリフォルニア州の半乾燥地域では、本菌が発生するにもかかわらず、子のう殻がほとんど発見されていない。また、休眠期のせん定作業による傷も感染の原因になり、傷口から子のう胞子が感染する

が、感染には水が必要となる。

未発達の子座内には分生子殻が形成されるが、分生子は主要な分散手段とは考えられていない。(CABI, 2023)。

(2) 人為分散

感染した栽植用植物(苗及び穂木)が経路となり分散する可能性が指摘されている(Tosi and Natalini, 2009; Wenneker et al., 2011)。なお、本菌で種子伝染は知られていない(CABI, 2023)。

6. 生態

(1) 中間宿主及びその必要性 情報なし。

(2) 伝染環数

本菌の子のう殻から飛散した子のう孢子によって伝搬する。枯死した樹上では、子座及び子のう殻が形成されるが、この過程は組織が枯死してから2年以上を要する。子座は数年間生き残り、毎年新しい子のう殻を形成するが、症状は感染してから18か月から2年以上発現しない(CABI, 2023)。

(3) 植物残さ中での生存

本菌は、枯死した樹上で、子座及び子のう殻を形成する(CABI, 2023)。

(4) 耐久生存態 情報なし。

7. 媒介性又は被媒介性

本菌は、ベクターによる伝搬は知られていない(CABI, 2023)。

8. 被害の程度

本菌が発生することにより、殺菌剤散布及び衛生管理が必要になり、せん定作業等の防除経費の増加、感染植物の伐採に伴う費用の発生及び生産量の低下並びに発病に伴う毎年の減収が生じる。世界的には、ブドウ、次にアズズの生産に影響を及ぼしている。アメリカ合衆国カリフォルニア州ではブドウ、アズズ及びサクランボが、フランス及びイタリアではブドウが、オーストラリア及びトルコではアズズが影響を受けている。アメリカ合衆国ミシガン州のブドウでは、重度に発病した園地で80%、中程度の園地で35%の収量の減少が報告されている(CABI, 2023)。

9. 防除

本菌による広範囲な被害を防ぐために積極的な慣行防除が必要である。有効な総合的防除として、感染植物や枝の除去等の衛生管理の実施、適切なせん定作業、せん定による傷の殺菌剤保護がある(CABI, 2023; Smith et al., 2023)。

10. 診断、検出及び同定

(1) 診断

以下のア又はイの症状がある場合は、その表面にウの黒色の分生子殻・子座があるか、また古い枯枝については、樹皮を剥ぎエの黒色の子のう殻があるかを検査する。黒色の分生子殻・

子座又は子のう殻・子座が認められた場合は、実体・生物顕微鏡による検鏡を行う（CABI, 2023）。

- ア かいよう病斑及びその部分からの樹液の漏出
- イ せん定部を中心とした木部の黒褐色変とそれに伴う枝枯れ
- ウ 枝上の黒色の分生子殻・子座（胞子角を噴出することもある）
- エ 古い枯枝の樹皮下に形成された子のう殻・子座

（2）検定

- ・ 血清学的診断法：ELISA 法（Octave *et al.*, 2009）
 - ※ ELISA キットは市販されていない。
- ・ 遺伝子診断法：PCR 法等（Lecomte *et al.*, 2000; Rolshausen *et al.*, 2004; Schwappach and Grimm, 2006; Gainza-Cortes *et al.*, 2020）

1 1. 日本における輸入検疫措置

本菌は、植物防疫法施行規則（農林省, 1950）別表 2 の 2 に規定されている検疫有害植物であり、同施行規則別表 2 の 2 に規定されている国又は地域からの該当する宿主植物の生植物（種子及び果実を除く。）であって栽培の用に供するものについては、生育中に栽培地検査を行って本菌の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記することを要求している。

1 2. 諸外国における輸入検疫措置

（1）インド

本菌は隔離栽培中の検査の対象であり、指定された国から輸入された対象植物については、輸入後の隔離栽培中の検査を行っている。また、欧州産のヨーロッパブナ（*Fagus sylvatica*）の丸太については、くん蒸と同等の処理、熱処理又は NPPO の認めた方法による処理を行い、検査証明書に追記することを求めている（DAC & FW, 2021）。

（2）その他

中華人民共和国（中華人民共和国, 2023）、台湾（BAPHIQ, 2023）等は検疫有害動植物リストに掲載しているが、具体的な検疫措置は講じていない。

II 病害虫リスクアナリシスの結果

第1 開始（ステージ1）

1. 開始

Eutypa lata に対するリスク評価を行い、現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施する。

2. 対象となる有害動植物

Eutypa lata を対象とする。

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2. 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3. 宿主植物及び日本国内での分布」に示す「宿主植物」であって、「4. 感染部位及びその症状」に示す「感染部位」を含む植物を対象とする。

4. 対象となる地域

日本全域を対象とする。

5. 開始の結論

本菌を開始点とし、その発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価（ステージ2）

1. 有害動植物の類別

ステージ1で特定された有害動植物について、国内における発生及び公的防除の有無、定着及びまん延の可能性並びに経済的影響を及ぼす可能性について調査し、検疫有害動植物の定義の要件を満たしているかどうかを検討する。なお、検疫有害動植物の要件を満たしていない場合は、それが判明した時点で評価を中止し病害虫のリスクは「無視できる」とする。

(1) 有害動植物の国内での発生の有無及び公的防除の有無等

Eutypa lata は、国内未発生である。

(2) 定着及びまん延の可能性の評価

本菌の宿主植物であるブドウ属は、47都道府県で栽培されていることから、国内に定着及びまん延する可能性があるとは判断する。

(3) 経済的影響を及ぼす可能性

本菌が発生しているアメリカ合衆国ミシガン州のブドウ園地では、重度に発病した園地で80%、中程度の園地で35%の収量の減少が報告されている。

したがって、現在、本菌は国内未発生であるが、もし、本菌が国内に入り込み、定着及びまん延した場合、経済的影響を及ぼす可能性がある。

(4) 評価にあたっての不確実性

特になし。

(5) 有害動植物の類別の結論

本菌は国内未発生であるが、宿主植物であるブドウ属は国内で広く栽培されていることから、本菌が国内に定着及びまん延する可能性がある。また、アメリカ合衆国で被害報告があることから、国内においても経済的影響を及ぼす可能性は否定できない。

したがって、本菌は、植物検疫措置に関する国際基準（以下「ISPM」という。）No.11「検疫有害動植物に関する病害虫リスクアナリシス」に規定された検疫有害動植物の要件を満たすことから、本菌に対するリスクアナリシスを実施するため、引き続き「2. 農業生産等への影響の評価」で評価を行う。

2. 農業生産等への影響の評価

(1) 定着の可能性の評価

ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

本菌は植物残さ中で長期間生存可能である。

(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間宿主の利用可能性

中間宿主が必須との情報は得られていない。

(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略

本菌は有害植物であるため、評価基準に基づき5点と評価した。

イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

本菌の宿主植物であるブドウ属は 47 都道府県で栽培されていることから、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ

本菌が宿主とする植物の科は、バラ科、ブドウ科等を含む 29 科が知られている。

(ウ) 有害動植物の侵入歴

本菌は、旧北区、エチオピア区、新北区、東洋区、新熱帯区、オーストラリア区及び南極区の7区に分布する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

ウ 定着の可能性の評価結果

評価した項目の平均から、定着の可能性の評価点は5点満点中の5点となった。

(2) まん延の可能性の評価

ア 自然分散（自然条件における潜在的検疫有害動植物の分散）

(ア) ベクター以外による伝搬

a 移動距離

本菌は、子のう胞子により風媒伝搬する（50km 以上の長距離を伝搬することが知られている）。よって、評価基準に基づき5点と評価した。

b 伝染環数

本菌の子座は数年間生き残り、毎年新しい子のう殻を形成することから、伝染環は1年に1回と判断した。よって、評価基準に基づき3点と評価した。

(イ) ベクターによる伝搬

a ベクターの移動距離

ベクターは知られていない。よって、本項目は評価しない。

b 伝搬様式

ベクターは知られていない。よって、本項目は評価しない。

イ 人為分散

(ア) 農作物を介した分散

本菌の宿主植物であるブドウ属は 47 都道府県で栽培されていることから、評価基準に基づき5点と評価した。

(イ) 非農作物を介した分散

非農作物を介した分散は知られていない。よって、本項目は評価しない。

ウ まん延の可能性の評価結果

評価した項目の平均から、まん延の可能性の評価点は5点満点中の4.3点となった。

(3) 経済的重要性の評価

ア 直接的影響

(ア) 影響を受ける農作物又は森林資源

本菌の宿主植物であるブドウ、サクランボ、モモ、スモモ、リンゴ等の農産物産出額は、4,119 億円となる。よって、評価基準に基づき4点と評価した。

(イ) 生産への影響

本菌の宿主植物であるブドウ、サクランボ、モモ、スモモ、リンゴ等は、生産農業所得

統計の対象植物である。発生国では高い頻度で枯死にいたる例はないが、品質低下、毎年の減収を含む明確な経済的被害が報告されている（流通過程を含め商品部位以外への被害がある）。また、アメリカ合衆国では本菌による枝枯れの結果、収量が80%減収となった例も報告されている。よって、評価基準に基づき3点と評価した。

(ウ) 防除の困難さ

本菌に対する公的防除の情報は得られなかった。

(エ) 直接的影響の評価結果

上記(ア)及び(イ)の評価点の積は12点となり、評価基準に基づき直接的影響の評価点は3点となった。

イ 間接的影響

(ア) 農作物の政策上の重要性

本菌の宿主植物であるブドウ、サクランボ、モモ、スモモ、リンゴ等は「農業保険法」及び「同法施行令」、「果樹農業振興特別措置法施行令」に規定する主要農作物に該当する。ため、評価基準に基づき1点と評価した。

(イ) 輸出への影響

海外ではインドが、本菌を対象として指定された国から輸入された対象植物に対し輸入後の隔離栽培検査を行っている。しかし、その他輸入禁止等の規制を行っている国はないことから評価しない。

ウ 経済的重要性の評価結果

直接的影響の評価結果の得点と間接的影響の得点の和から、経済的重要性の評価点は4点となった。

(4) 評価における不確実性

特になし。

(5) 農業生産等への影響評価の結論（病虫害固有のリスク）

定着及びまん延の可能性並びに経済的重要性の3項目の評価点の積は86.7点となり、本菌の農業生産等への影響の評価を「高い」と結論付けた。

3. 入り込みの可能性の評価

項目	評価における判断の根拠等		
(1) 感染部位	葉、枝、つるや幹		
(2) 国内に入り込む可能性のある経路	入り込む可能性のある経路は、〔栽植用植物〕、〔消費生植物〕、〔消費用木材〕及び〔消費用乾燥植物類〕が考えられる。		
	用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用植物	葉、枝、幹	○
	イ 消費生植物	葉、枝、幹	○
ウ 消費用木材	幹	○	

	エ 消費用乾燥植物類	つる、枝、幹	○
(3) 宿主植物の輸入検査量	別紙3参照		

(4) 入り込みの可能性の評価

ア 栽植用植物

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
原産地で本菌の生存に影響を与えるような加工処理は実施されていないことから、本菌が通常輸送中問題なく生き残る可能性が高い。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本菌は有害植物である。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
栽植用植物は、直接栽培施設、ほ場等へ持ち込まれる。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
栽植用植物は、栽植用として利用されることで入り込みが完了する。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
特になし。

栽植用植物の入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の得点から平均値は5点であり、本菌の栽植用植物を経路とした場合の入り込みの可能性の評価を「高い」と結論付けた。

イ 消費用生植物

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
原産地で本菌の生存率に影響を与える加工処理等は実施されていないことから、本菌が通常輸送中問題なく生き残る可能性が高い。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本菌は有害植物である。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本菌の宿主植物であるブドウ属は47都道府県で栽培されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
本菌は子のう胞子により風媒伝搬する。よって、評価基準に基づき2点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
消費用生植物のうち、切り枝又は切り花を経路とした場合、本来の用途ではない栽培目的で使用される可能性があるため、評価には不確実性を伴う。

消費用生植物の入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の得点から平均値は4点であり、本菌の消費用生植物を経路とした場合の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

ウ 消費用木材

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
原産地で本菌の生存率に影響を与える加工処理等は実施されていないことから、本菌が通常輸送中問題なく生き残る可能性が高い。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本菌は有害植物である。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本菌の宿主植物であるブドウ属は47都道府県で栽培されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
本菌は子のう胞子により風媒伝搬する。よって、評価基準に基づき2点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
特になし。

消費用木材の入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の得点から平均値は4点であり、本菌の消費用木材を経路とした場合の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

エ 消費用乾燥植物類

- (ア) 輸送中の生き残りの可能性（加工処理に耐えて生き残る可能性）
原産地で本菌の生存率に影響を与える加工処理等は実施されていないことから、本菌が通常輸送中問題なく生き残る可能性が高い。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ
本菌は有害植物である。よって、評価基準に基づき5点と評価した。
- (ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性
本菌の宿主植物であるブドウ属は47都道府県で栽培されている。よって、評価基準に基づき4点と評価した。
- (エ) 輸入品目からの自然分散の可能性
本菌は子のう胞子により風媒伝搬する。よって、評価基準に基づき2点と評価した。
- (オ) 評価における不確実性
特になし。

消費用乾燥植物類の入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の得点から平均値は4点であり、本菌の消費用乾燥植物類を経路とした場合の入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

4. *Eutypa lata* の病害虫リスク評価の結論

本菌は検疫有害植物であり、栽植用植物、消費用生植物、消費用木材及び消費用乾燥植物類を経路として入り込む可能性があるとして評価した。

農業生産等への影響評価の結論 (病害虫固有のリスク)	入り込みの可能性の評価		病害虫リスク評価の結論
	用途	結論	
高い	ア 栽植用植物	高い	高い

	イ 消費生植物	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）
	ウ 消費木材	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）
	エ 消費乾燥植物類	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）

第3 病害虫リスク管理（ステージ3）

病害虫リスク評価の結果、*Eutypa lata* はリスク管理措置が必要な検疫有害植物であると判断されたことから、ステージ3において、発生国からの宿主植物の輸入に伴う本菌の入り込みのリスクを低減するための適切な管理措置について検討する。

1. *Eutypa lata* に対するリスク管理措置の選択肢の検討

選択肢	方法	有効性及び実行可能性の検討	実施主体 (時期)	有効性	実行可能性
①病害虫無発生 の地域、生産地 又は生産用地の 設定及び維持	ISPM 4 又は 10 に基づき 設定及び維持 する。	〔有効性〕 ● ISPM に基づき輸出国植物防 疫機関が設定、管理及び維持 する病害虫無発生地域、生 産地又は生産用地であれば、 有効である。 〔実行可能性〕 ● 輸出国において適切に管理さ れることが必要であるが、実 行可能と考えられる。	輸出国 (輸出前)	○	○
②システム ズアプロ ーチ	ISPM 14 に 基づき実施 する。	複数の管理措置の組合せである システムズアプローチの有効性 及び実行可能性については、具 体的に提案される管理措置の内 容を検討する必要がある。	輸出国 (輸出前)	—	—
③栽培地検 査	栽培期間中 に生育場所 において植 物の症状等 を観察する。	〔有効性〕 ● 栽培期間中に症状を明瞭に現 す場合は有効である。 ● 本菌は、せん定後の傷にかい よう斑を生じ、木質部の褐 変、腐朽及び導管部の褐変を 引き起こし、これらの被害部 から出るシュートは萎縮、黄 化する。このように本菌は、 特徴的な症状を現すことから 栽培期間中の検査は有効であ る。 ● ブドウについては、感染後2 ～3年間は症状を現さない場 合もあるため、栽培期間中の 検査の効果は限定的である。 〔実行可能性〕 ● 輸出国において適切な検査が 行われる必要があるが、実行	輸出国 (栽培中)	○ (ブドウ 属栽植用 植物▽)	○

		可能と考えられる。			
④精密検定	血清学的診断法、遺伝子診断法等による精密検定を実施する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 遺伝子学的診断法により同定が可能との報告がある。 ● ただし、症状が明瞭な場合は有効であるが、初期症状は微小であり見逃す可能性がある。したがって、効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入国において検定施設を有するとともに、特異的なプライマー及びポジティブコントロールが必要であるが、実行可能と考えられる。 	<p>輸出国 (輸出前)</p> <p>輸入国 (輸入時)</p>	<p>▽</p> <p>▽</p>	<p>○</p> <p>○</p>
⑤検査証明書への追記	輸出国での目視検査の結果、本菌に感染してないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出検査時に幹、枝及び葉に明瞭な症状を形成している場合は、識別できると判断される。 ● しかし、初期症状は微小であり見逃す可能性がある。したがって、効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出国において適切な検査が行われる必要があるが、実行可能と考えられる。 	<p>輸出国 (輸出時)</p>	<p>▽</p>	<p>○</p>
⑥輸出入検査(目視検査)	植物の症状等を確認する。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入検査時に幹、枝及び葉に明瞭な症状を形成している場合は、識別できると判断される。 ● しかし、初期症状は微小であり見逃す可能性がある。したがって、効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入国において通常実施されている検査であり、実行可能である。 	<p>輸出国 (輸出時)</p> <p>輸入国 (輸入時)</p>	<p>▽</p> <p>▽</p>	<p>○</p> <p>○</p>

<p>⑦ 隔離栽培中の検査</p>	<p>輸入後、国内の施設において一定期間栽培し、生物検定や精密検定を実施する。</p>	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 症状発現まで時間を要する場合でも、隔離栽培施設で適切に管理することにより検査が可能である。 ● 隔離期間中に症状を診断し、精密検定等により検出が可能である。 ● 本菌の自然分散の方法は孢子が風媒伝搬することから隔離栽培施設内に飛散する可能性があるが、以下の点から有効である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 孢子形成のための子座形成は感染植物の組織が死んでから2年以上かかるため、隔離栽培中に症状を診断し、本菌である事を確認した場合には適切に廃棄することにより隔離栽培施設内での本菌のまん延を防ぐことができる。 ● アンズは症状が出るまでに18ヶ月かかる。 ● ブドウについては、感染後2～3年間は症状を現さない場合もあるため、隔離栽培期間中の検査の効果は限定的である。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多年生植物は、隔離栽培中の検査が実行可能であるが、隔離栽培ができる施設に限られており、検査できる数量等が制限され、隔離栽培運用基準（農林省, 1968）に規定されていない宿主植物を新たに隔離栽培する場合は、隔離栽培施設の整備及び栽培管理のための条件を整える必要があることから、限定条件下で実行可能である。 ● クルミ属、サクラ属、スグリ 	<p>輸入国 (輸入後)</p>	<p>○ (ブドウ属栽植用植物▽)</p>	<p>▽ (クルミ属、サクラ属、スグリ属、ナシ属、ブドウ属、ミカン属及びリンゴ属の栽植用植物○)</p>
-------------------	---	--	----------------------	---------------------------	--

		属、ナシ属、ブドウ属、ミカン属及びリンゴ属の栽植用植物は、同運用基準で対象としているため、実行可能である。			
--	--	---	--	--	--

- 有効性 ○：効果が高い
▽：限定条件下で効果がある
×：効果なし
－：検討しない
- 実行可能性 ○：実行可能
▽：限定条件下で実行可能
×：実行困難
－：検討しない

2. 経路ごとの *Eutypa lata* に対するリスク管理措置の選択肢の検討

(1) 栽植用植物

ア 検討結果

病害虫無発生地域、生産地又は生産用地の設定及び維持（選択肢①）は、本菌の入り込みのリスクに対して有効な管理措置である。しかしながら、病害虫無発生地域等の設定及び維持は、宿主植物の栽培環境、病害虫管理等を含む各種要因に影響を受けるため、個別案件ごとに具体的な内容を輸出国植物防疫機関が示し、日本がその許諾を判断する必要がある。

栽培地検査（選択肢③）は、本菌による症状として、せん定後の傷にかいよう斑を生じ、木質部の褐変、腐朽及び導管部の褐変を引き起こし、これらの被害部から出るシュートは萎縮、黄化するとの報告があることから、有効な管理措置である。

なお、ブドウについては、感染後2～3年間は症状を現さない場合もあるため、栽培地検査（選択肢③）又は隔離栽培中の検査（選択肢⑦）の単独の措置では有効でない可能性がある。しかしながら、ブドウは挿し木で苗を作るため、1年以上経過した苗を出荷・輸出すると考えられる。このため、栽培地検査で本菌による症状が現れないとしても、隔離栽培中の検査と組み合わせることにより検査期間中に症状を現す可能性が高くなることから、栽培地検査と隔離栽培中の検査を併用することが有効な管理措置であると考えられる。

イ リスク管理措置の特定（ブドウ属植物を除く。）

栽植用植物（ブドウ属植物を除く。）に対する管理措置として、本菌の入り込みのリスクを低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でないことを考慮し、以下を特定した。

- 輸出国（栽培中）において、生育期中に栽培地検査を行い、本菌の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。

ウ リスク管理措置の特定（ブドウ属植物）

栽植用のブドウ属植物に対する管理措置として、本菌の入り込みのリスクを低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でないことを考慮し、以下を特定した。

- 輸出国（栽培中）において、生育期中に栽培地検査を行い、本菌の発生がないことを確

認し、その旨を検査証明書に追記する。また、輸入国（輸入後）において、全量を隔離栽培中の検査対象として、国内の施設において一定期間栽培し、本菌による症状の確認や精密検定を行い、本菌に感染していないことを確認する。

(2) 消費生植物、消費木材及び消費乾燥植物類

ア 検討結果

病虫害無発生地域、生産地又は生産用地の設定及び維持（選択肢①）及び栽培地検査（選択肢③）は、消費生植物、消費木材及び消費乾燥植物類において有効な管理措置である。

検査証明書への追記（選択肢⑥）及び輸出入検査（目視検査）（選択肢⑦）は、以下の点から有効な管理措置と考える。

- ・ 通常、輸入される消費生植物、消費木材及び消費乾燥植物類は、直接栽培地へ持ち込まれる可能性は低い。このため、輸入時に症状がなければ感染源となる可能性は無視できると考えられる。

イ リスク管理措置の特定

消費生植物、消費木材及び消費乾燥植物類に対する管理措置として、本菌の入り込みのリスクを低減させることが可能であり、かつ必要以上に貿易制限的でないことを考慮し、以下を特定した。

- 輸出国（輸出時）及び輸入国（輸入時）において、本菌による症状の有無について目視検査を行い、本菌に感染していないことを確認する。

3. *Eutypa lata* の病虫害リスク管理の結論

経路ごとにリスク管理措置の選択肢を検討した結果、本菌の入り込みのリスクを低減させる効果があり、かつ必要以上に貿易制限的ではないと判断した各経路の管理措置を以下にとりまとめた。

経路（対象部位）	対象植物	リスク管理措置
栽植用植物（種子及び果実を除く。）	ウコギ科：セイヨウキヅタ (<i>Hedera helix</i>) ウルシ科：アカツユ (<i>Schinus terebinthifolius</i>)、コショウボク (<i>S. molle</i>)、テレピンノキ (<i>Pistacia terebinthus</i>)、ピスタキア・レンティスクス (<i>P. lentiscus</i>)、ピスタシオノキ (<i>P. vera</i>) カエデ科：コブカエデ (<i>Acer campestre</i>)、ヒロハカエデ (<i>A. macrophyllum</i>) カキノキ科：カキ (<i>Diospyros kaki</i>) カバノキ科：セイヨウシデ (<i>Carpinus betulus</i>)、セイヨウハシバミ (<i>Corylus avellana</i>) キョウチクトウ科：セイヨウキョウチクトウ (<i>Nerium oleander</i>)	○ 輸出国（栽培中）において、生育中に栽培地検査を行い、本菌の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。

ギョリュウ科：ギョリュウ属 (*Tamarix*)
 クマツヅラ科：グメリナ・ライヒハルディ
 (*Gmelina leichhardtii*)、ランタナ
 (*Lantana camara*)
 クルミ科：ペルシャグルミ (*Juglans regia*)
 クロウメモドキ科：クロウメモドキ属
 (*Rhamnus*)、ケアノツス属
 (*Ceanothus*)
 クワ科：イチジク (*Ficus carica*)
 ザクロ科：ザクロ (*Punica granatum*)
 シナノキ科：コバノシナノキ (*Tilia*
cordata)、ナツボダイジュ (*T.*
platyphyllos)
 スイカズラ科：シンフォリカルポス・オルビク
 ラツス (*Symphoricarpos orbiculatus*)、
 セイヨウニワトコ (*Sambucus nigra*)、
 ロニケラ・アルピゲナ (*Lonicera*
alpigena)、ロニケラ・クシロステウム
 (*L. xylosteum*)、ガマズミ属
 (*Viburnum*)
 スズカケノキ科：モミジバスズカケノキ
 (*Platanus acerifolia*)
 ツツジ科：アルクトスタフィロス・スタンフォ
 ーディアナ (*Arctostaphylos*
stanfordiana)
 トチノキ科：アエスクルス・カリフォルニカ
 (*Aesculus californica*)
 トベラ科：シマトベラ (*Pittosporum*
undulatum)
 ニレ科：セイヨウハルニレ (*Ulmus glabra*(=*U.*
scabra))
 バラ科：クサボケ (*Chaenomeles japonica*
 (= *Choenomeles japonica*))、セイヨウナ
 シ (*Pyrus communis*)、ソルブス・アリ
 ア (*Sorbus aria*)、ビワ (*Eriobotrya*
japonica)、マルメロ (*Cydonia*
oblonga)、ヨーロッパナナカマド
 (*Sorbus aucuparia*)、サクラ属
 (*Prunus*)、サンザシ属 (*Crataegus*)、
 シャリントウ属 (*Cotoneaster*)、バラ属
 (*Rosa*)、リンゴ属 (*Malus*)
 ブドウ科：キッスス・ヒポグラウカ (*Cissus*
hypoglauca)
 ブナ科：ヨーロツパブナ (*Fagus sylvatica*)、

	<p>コナラ属 (<i>Quercus</i>) マメ科：フサアカシア (<i>Acacia dealbata</i>)、ヒトツバエニシダ属 (<i>Genista</i>) ミカン科：ショワジア・テルナタ (<i>Choisya ternata</i>)、レモン (<i>Citrus limon</i>) ミズキ科：ミズキ属 (<i>Comus</i>) メギ科：ベルベリス・ダーウィニー (<i>Berberis darwinii</i>) モクセイ科：ウンナンオウバイ (<i>Jasminum mesnyi</i>)、オリーブ (<i>Olea europaea</i>)、セイヨウトネリコ (<i>Fraxinus excelsior</i>)、ムラサキハシドイ (<i>Syringa vulgaris</i>)、ヨウシュイボタ (<i>Ligustrum vulgare</i>) ヤナギ科：サリックス・カプレア (<i>Salix caprea</i>)、サリックス・マクロナタ (<i>S. mucronata</i>)、サリックス・ラシオレピス (<i>S. lasiolepis</i>)、セイヨウハコヤナギ (<i>Populus nigra</i> var. <i>italica</i> (= <i>P. italica</i>)) ユキノシタ科：スグリ属 (<i>Ribes</i>)</p>	
	<p>ブドウ科：ブドウ属植物 (<i>Vitis</i>)</p>	<p>○ 輸出国 (栽培中) において、生育中に栽培地検査を行い、本菌の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記する。また、輸入国 (輸入後) において、全量を隔離栽培中の検査対象として、国内の施設において一定期間栽培し、本菌による症状の確認や精密検定を行い、本菌に感染していないことを確認する。</p>
<p>消費生植物 (種子、果実及び地下部を除く。)、消費木材及び消費乾燥植物類 (種子、果実及び地下部を除く。)</p>	<p>ウコギ科：セイヨウキツタ (<i>Hedera helix</i>) ウルシ科：アカツユ (<i>Schinus terebinthifolius</i>)、コシヨウボク (<i>S. molle</i>)、テレピンノキ (<i>Pistacia terebinthus</i>)、ピスタキア・レンティスクス (<i>P. lentiscus</i>)、ピスタシオノキ (<i>P. vera</i>) カエデ科：コブカエデ (<i>Acer campestre</i>)、ヒロハカエデ (<i>A. macrophyllum</i>) カキノキ科：カキ (<i>Diospyros kaki</i>)</p>	<p>○ 輸出国 (輸出時) 及び輸入国 (輸入時) において、本菌による症状の有無について目視検査を行い、本菌に感染していないことを確認する。</p>

	<p>カバノキ科：セイヨウシデ (<i>Carpinus betulus</i>)、セイヨウハシバミ (<i>Corylus avellana</i>)</p> <p>キョウチクトウ科：セイヨウキョウチクトウ (<i>Nerium oleander</i>)</p> <p>ギョリュウ科：ギョリュウ属 (<i>Tamarix</i>)</p> <p>クマツヅラ科：グメリナ・ライヒハルディ (<i>Gmelina leichhardtii</i>)、ランタナ (<i>Lantana camara</i>)</p> <p>クルミ科：ペルシャグルミ (<i>Juglans regia</i>)</p> <p>クロウメモドキ科：クロウメモドキ属 (<i>Rhamnus</i>)、ケアノツス属 (<i>Ceanothus</i>)</p> <p>クワ科：イチジク (<i>Ficus carica</i>)</p> <p>ザクロ科：ザクロ (<i>Punica granatum</i>)</p> <p>シナノキ科：コバノシナノキ (<i>Tilia cordata</i>)、ナツボダイジュ (<i>T. platyphyllos</i>)</p> <p>スイカズラ科：シンフォリカルポス・オルビクラツス (<i>Symphoricarpos orbiculatus</i>)、セイヨウニワトコ (<i>Sambucus nigra</i>)、ロニケラ・アルピゲナ (<i>Lonicera alpigena</i>)、ロニケラ・クシロステウム (<i>L. xylosteum</i>)、ガマズミ属 (<i>Viburnum</i>)</p> <p>スズカケノキ科：モミジバスズカケノキ (<i>Platanus acerifolia</i>)</p> <p>ツツジ科：アルクトスタフィロス・スタンフォードディアナ (<i>Arctostaphylos stanfordiana</i>)</p> <p>トチノキ科：アエスクルス・カリフォルニカ (<i>Aesculus californica</i>)</p> <p>トベラ科：シマトベラ (<i>Pittosporum undulatum</i>)</p> <p>ニレ科：セイヨウハルニレ (<i>Ulmus glabra</i> (= <i>U. scabra</i>))</p> <p>バラ科：クサボケ (<i>Chaenomeles japonica</i> (= <i>Choenomeles japonica</i>))、セイヨウナシ (<i>Pyrus communis</i>)、ソルブス・アリア (<i>Sorbus aria</i>)、ビワ (<i>Eriobotrya japonica</i>)、マルメロ (<i>Cydonia oblonga</i>)、ヨーロッパナナカマド (<i>Sorbus aucuparia</i>)、サクラ属 (<i>Prunus</i>)、サンザシ属 (<i>Crataegus</i>)、</p>	
--	--	--

	<p> シャリントウ属 (<i>Cotoneaster</i>)、バラ属 (<i>Rosa</i>)、リンゴ属 (<i>Malus</i>) ブドウ科：キッスス・ヒポグラウカ (<i>Cissus hypoglauca</i>)、ブドウ属 (<i>Vitis</i>) ブナ科：ヨーロッパブナ (<i>Fagus sylvatica</i>)、コナラ属 (<i>Quercus</i>) マメ科：フサアカシア (<i>Acacia dealbata</i>)、ヒトツバエニシダ属 (<i>Genista</i>) ミカン科：ショワジア・テルナタ (<i>Choisya temata</i>)、レモン (<i>Citrus limon</i>) ミズキ科：ミズキ属 (<i>Comus</i>) メギ科：ベルベリス・ダーウィニー (<i>Berberis darwinii</i>) モクセイ科：ウンナンオウバイ (<i>Jasminum mesnyi</i>)、オリーブ (<i>Olea europaea</i>)、セイヨウトネリコ (<i>Fraxinus excelsior</i>)、ムラサキハシドイ (<i>Syringa vulgaris</i>)、ヨウシュイボタ (<i>Ligustrum vulgare</i>) ヤナギ科：サリックス・カプレア (<i>Salix caprea</i>)、サリックス・マクロナタ (<i>S. mucronata</i>)、サリックス・ラシオレピス (<i>S. lasiolepis</i>)、セイヨウハコヤナギ (<i>Populus nigra</i> var. <i>italica</i> (= <i>P. italica</i>)) ユキノシタ科：スグリ属 (<i>Ribes</i>) </p>	
--	--	--

なお、輸出国から上記に示す管理措置以外の提案があった場合は、その内容を検討し、上記の管理措置と同等のものであるかを判断する必要がある。

Eutypa lata の発生国等の根拠

国又は地域	ステータス	根拠文献	備考
アジア			
インド	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
パキスタン	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
中東			
イスラエル	発生	Munkvold, 2001	
トルコ	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
レバノン	発生	CABI, 2023	
欧州			
アイルランド	発生	NBN Gateway, 2023	
イタリア	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
ウクライナ	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
英国	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
オーストリア	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
<u>オランダ</u>	<u>発生</u>	<u>Wenneker et al., 2011</u>	追加
キプロス	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
ギリシャ	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
スイス	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
スペイン	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
スロバキア	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
セルビア	発生	CABI, 2023	
<u>チェコ</u>	<u>発生</u>	<u>CABI, 2023; Eichmeier et al., 2020;</u> <u>EPPO, 2023</u>	追加
ドイツ	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023; Schwappach and Grimm, 2006	
ノルウェー	発生	Nordén and Jordal, 2015	
ハンガリー	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
フランス	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
ブルガリア	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
ポルトガル	発生	CABI, 2023	
モルドバ	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
ルーマニア	発生	CABI, 2023	
アフリカ			
アルジェリア	発生	CABI, 2023	
南アフリカ共和国	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
リビア	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
北米			

アメリカ合衆国	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
カナダ	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
中南米			
チリ	発生	CABI, 2023; Grinbergs et al., 2021; Lolas et al., 2020	
ブラジル	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
ベネズエラ	発生	CABI, 2023	
メキシコ	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	
大洋州			
オーストラリア	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023; Sosnowski et al., 2020	
ニュージーランド	発生	CABI, 2023; EPPO, 2023	

注) 備考欄の「追加」は、文献情報等に基づき令和6（2024）年2月19日改訂時に追加した国。

Eutypa lata の宿主植物の根拠

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献	備考
			属名	種名			
ウコギ科 (Araliaceae)	<i>Hedera helix</i>		キツタ属	セイヨウキツタ	English ivy	CABI, 2023; Carter, 1991; Trouillas and Gubler, 2010	
ウルシ科 (Anacardiaceae)	<i>Pistacia lentiscus</i>		トネリバハゼノキ属	ピスタキア・レティスクス	mastic	CABI, 2023; Carter, 1991	
ウルシ科 (Anacardiaceae)	<i>Pistacia terebinthus</i>		トネリバハゼノキ属	テレピンノキ	terebinth	Carter, 1991	
ウルシ科 (Anacardiaceae)	<i>Pistacia vera</i>		トネリバハゼノキ属	ピスタシオノキ	pistachio	CABI, 2023; Rumbos, 1986; Teviotdale et al., 2001	
ウルシ科 (Anacardiaceae)	<i>Schinus molle</i>		サンショウモドキ属	コショウボク	Peruvian pepper	CABI, 2023; Carter, 1991	
ウルシ科 (Anacardiaceae)	<i>Schinus terebinthifolius</i>		サンショウモドキ属	アカツユ	Brazilian pepper tree	CABI, 2023; Carter, 1991	
カエデ科 (Aceraceae)	<i>Acer campestre</i>		カエデ属	コブカエデ	field maple	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; Trouillas and Gubler, 2010	
カエデ科 (Aceraceae)	<i>Acer macrophyllum</i>		カエデ属	ヒロハカエデ	bigleaf maple	Trouillas and Gubler, 2010; Trouillas et al., 2007	
カキノキ科 (Ebenaceae)	<i>Diospyros kaki</i>		カキノキ属	カキ	persimmon	CABI, 2023; Carter, 1991	
カバノキ科 (Betulaceae)	<i>Carpinus betulus</i>		クマシデ属	セイヨウシデ	European hornbeam	CABI, 2023; Carter, 1991	

カバノキ科 (Betulaceae)	<i>Corylus avellana</i>		ハシバミ属	セイヨウハシバミ	hazel	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
キョウチクトウ科 (Apocynaceae)	<i>Nerium oleander</i>		キョウチクトウ属	セイヨウキョウチクトウ	common oleander	CABI, 2023; Carter, 1991; Trouillas and Gubler, 2010; Trouillas et al., 2007	
ギョリュウ科 (Tamaricaceae)	<i>Tamarix</i>		ギョリュウ属		tamarisk	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; EPPO, 2023	
クマツヅラ科 (Verbenaceae)	<i>Gmelina leichhardtii</i>		グメリナ属	グメリナ・ライヒハルディ	white beech	Carter, 1991	
クマツヅラ科 (Verbenaceae)	<i>Lantana camara</i>		ランタナ属	ランタナ	lantana	CABI, 2023; Carter, 1991	
クルミ科 (Juglandaceae)	<i>Juglans regia</i>		クルミ属	ペルシャクルミ	walnut	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; EPPO, 2023; Munkvold, 2001	
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Ceanothus</i>		ケアノツス属		white-thorn	CABI, 2023; EPPO, 2023; Munkvold, 2001	
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Ceanothus cyaneus</i>		ケアノツス属		San Diego ceanothus	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Ceanothus megacarpus</i>		ケアノツス属		bigpod ceanothus	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Ceanothus spinosus</i>		ケアノツス属		greenbark ceanothus, redheart	Carter, 1991; Carter et al., 1983	
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Ceanothus thyrsiflorus</i>		ケアノツス属		blueblossom ceanothus	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
クロウメモドキ科	<i>Rhamnus alaternus</i>		クロウメモドキ		Italian	Carter, 1991	

(Rhamnaceae)			属		buckthorn, Mediterranean buckthorn		
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Rhamnus alpina</i>		クロウメモドキ 属		alpen- kreuzdom	Carter, 1991	
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Rhamnus cathartica</i>		クロウメモドキ 属	ウメモドキ	buckthorn	CABI, 2023; Carter, 1991	
クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)	<i>Rhamnus frangula</i>	<i>Frangula alnus</i>	クロウメモドキ 属	セイヨウイ ソノキ	blackcurrant	CABI, 2023; Carter, 1991; Trouillas and Gubler, 2010	
クワ科 (Moraceae)	<i>Ficus carica</i>		イチジク属	イチジク	common fig	CABI, 2023; Carter, 1991	
ザクロ科 (Punicaceae)	<i>Punica granatum</i>		ザクロ属	ザクロ	Pomegrana- te	CABI, 2023; EPPO, 2023; Sosnowski et al., 2020	
シナノキ科 (Tiliaceae)	<i>Tilia cordata</i>		シナノキ属	コバノシナ ノキ	small-leaved lime	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
シナノキ科 (Tiliaceae)	<i>Tilia platyphyllos</i>		シナノキ属	ナツボダイ ジュ	large leaved linden	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
スイカズラ科 (Caprifoliaceae)	<i>Lonicera alpigena</i>		スイカズラ属	ロニケラ・ アルピゲナ	alpine honeysuckle	Carter, 1991	
スイカズラ科 (Caprifoliaceae)	<i>Lonicera xylosteum</i>		スイカズラ属	ロニケラ・ クシロステ ウム	fly honeysuckle	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
スイカズラ科 (Caprifoliaceae)	<i>Sambucus nigra</i>		ニワトコ属	セイヨウニ ワトコ	European elder	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
スイカズラ科 (Caprifoliaceae)	<i>Symphoricarpos orbiculatus</i>		シンフォリカル ポス属	シンフォリ カルポス・ オルビクラ	coralberry	Carter, 1991	

				ツス			
スイカズラ科 (Caprifoliaceae)	<i>Viburnum lantana</i>		ガマズミ属		wayfaring tree	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
スイカズラ科 (Caprifoliaceae)	<i>Viburnum opulus</i>		ガマズミ属	ヨウシュカ ンボク	guelder rose	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
スイカズラ科 (Caprifoliaceae)	<i>Viburnum tinus</i>		ガマズミ属	トキワガマ ズミ	laurustinus	Carter, 1991	
スズカケノキ科 (Platanaceae)	<i>Platanus acerifolia</i>		スズカケノキ属	モミジバス ズカケノキ	London planetree	CABI, 2023; Carter, 1991	
ツツジ科 (Ericaceae)	<i>Arctostaphylos stanfordiana</i>		アルクトスタフ ィロス属	アルクトス タフィロ ス・スタン フォーディ アナ		Carter, 1991	
トチノキ科 (Hippocastanaceae)	<i>Aesculus californica</i>		トチノキ属	アエスクル ス・カリフ ォルニカ	California buckeye	Trouillas and Gubler, 2010; Trouillas et al., 2007	
トベラ科 (Pittosporaceae)	<i>Pittosporum undulatum</i>		トベラ属	シマトベラ	mock orange	CABI, 2023; Carter, 1991	
ニレ科 (Ulmaceae)	<i>Ulmus glabra</i>	<i>U. scabra</i>	ニレ属	セイヨウハ ルニレ	wych elm	Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Chaenomeles japonica</i>	<i>Choenomeles japonica</i>	ボケ属	クサボケ	lesser flowering quince	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Cotoneaster glaucophyllus</i>		シャリントウ属		bright bead cotoneaster	Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Cotoneaster pannosus</i>	<i>C. pannosa</i>	シャリントウ属	ギンヨウシ ャリントウ	silverleaf cotoneaster	CABI, 2023; Carter, 1991	

バラ科 (Rosaceae)	<i>Cotoneaster salicifolius</i>		シャリントウ属		willowleaf cotoneaster	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Crataegus</i>		サンザシ属		hawthorns	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Crataegus monogyna</i>		サンザシ属	セイヨウサ ンザシ	hawthorn	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Cydonia oblonga</i>		マルメロ属	マルメロ	quince	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Eriobotrya japonica</i>		ビワ属	ビワ	loquat	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Malus</i>		リンゴ属			Trouillas and Gubler, 2010; Trouillas et al., 2007	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Malus domestica</i>		リンゴ属	リンゴ	apple	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; Munkvold, 2001; Trouillas and Gubler, 2010	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus americana</i>		サクラ属	アメリカス モモ	American plum, wild plum, Marshall's large yellow sweet plum	Brenckle, 1917; Farr and Rossman, 2023	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus armeniaca</i>		サクラ属	アンズ	apricot	CABI, 2023; Carter, 1991; Diekmann and Putter, 1996; EPPO, 2023; Munkvold, 2001; Trouillas and Gubler, 2010	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus avium</i>		サクラ属	サクランボ	sweet cherry	CABI, 2023; Carter, 1991; Munkvold, 2001; Trouillas and	

						Gubler, 2010	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus cerasus</i>		サクラ属	スミミザク ラ	sour cherry	CABI, 2023; Carter, 1991; Munkvold, 2001	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus domestica</i>		サクラ属	セイヨウス モモ	plum	CABI, 2023; Carter et al., 1983	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus dulcis</i>		サクラ属	アーモンド	almond	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; EPPO, 2023; Munkvold, 2001; Trouillas and Gubler, 2010	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus persica</i>		サクラ属	モモ	peach	CABI, 2023; Carter, 1991; Munkvold, 2001	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus salicina</i>		サクラ属	ニホンスモ モ	Japanese plum	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus spinosa</i>		サクラ属	スピノサス モモ	blackthorn	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Prunus virginiana</i>	<i>P. demissa</i>	サクラ属	バージニア ザクラ	chokecherry	Carter, 1991; Diekmann and Putter, 1996; Munkvold, 2001	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Pyrus communis</i>		ナシ属	セイヨウナ シ	European pear	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; Munkvold, 2001; Trouillas and Gubler, 2010; Trouillas et al., 2007	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Rosa</i>		バラ属		roses	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Sorbus aria</i>		ナナカマド属	ソルブス・ アリア	whitebeam	CABI, 2023; Carter, 1991	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Sorbus aucuparia</i>		ナナカマド属	ヨーロッパ ナナカマド	mountain ash	CABI, 2023; Carter, 1991	
ブドウ科	<i>Cissus hypoglauca</i>		セイシカズラ属	キッスス・	Australian	Carter, 1991	

(Vitaceae)				ヒポグラウ カ	vine		
ブドウ科 (Vitaceae)	<i>Vitis</i>		ブドウ属			CABI, 2023; Carter, 1991	
ブドウ科 (Vitaceae)	<i>Vitis labrusca</i>		ブドウ属		fox grape	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; Trouillas and Gubler, 2010	
ブドウ科 (Vitaceae)	<i>Vitis rupestris</i>		ブドウ属		sand-grape	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983	
ブドウ科 (Vitaceae)	<i>Vitis vinifera</i>		ブドウ属	ヨーロッパ ブドウ	grapevine	CABI, 2023; Carter, 1991; Carter et al., 1983; Diekmann and Putter, 1996; EPPO, 2023; Lecomte and Bailey, 2011; Munkvold, 2001; Octave et al., 2009; Trouillas and Gubler, 2010; Trouillas et al., 2007	
ブドウ科 (Vitaceae)	<i>Vitis vinifera</i> subsp. <i>vinifera</i>	<i>V. silvestris</i>	ブドウ属	ヨーロッパ ブドウ	common grape	Carter, 1991	
ブナ科 (Fagaceae)	<i>Fagus sylvatica</i>		ブナ属	ヨーロッパ ブナ	common beech	CABI, 2023; Carter, 1991	
ブナ科 (Fagaceae)	<i>Quercus</i>		コナラ属			Carter, 1991	
ブナ科 (Fagaceae)	<i>Quercus suber</i>		コナラ属	コルクガシ	cork oak	CABI, 2023; Carter, 1991	
マメ科 (Leguminosae)	<i>Acacia dealbata</i>		アカシア属	フサアカシ ア	mimosa	CABI, 2023; Carter, 1991	
マメ科	<i>Genista</i>		ヒトツバエニシ		broom	CABI, 2023; Carter, 1991;	

(Leguminosae)			ダ属				
マメ科 (Leguminosae)	<i>Genista monspessulana</i>		ヒトツバエニシ ダ属		French broom, Montpellier broom	Carter, 1991	
ミカン科 (Rutaceae)	<i>Choisya ternata</i>		ショワジア属	ショワジ ア・テルナ タ	Mexican orange	Carter, 1991	
ミカン科 (Rutaceae)	<i>Citrus limon</i>		ミカン属	レモン	lemon	CABI, 2023; Carter, 1991	
ミズキ科 (Comaceae)	<i>Comus alba</i>		ミズキ属	シラタマミ ズキ	red-barked dogwood	CABI, 2023; Carter, 1991	
ミズキ科 (Comaceae)	<i>Comus sanguinea</i>		ミズキ属		dogwood	CABI, 2023; Carter, 1991	
メギ科 (Berberidaceae)	<i>Berberis darwinii</i>		メギ属	ベルベリ ス・ダーウ ィニー	Darwin's barberry	Carter, 1991	
モクセイ科 (Oleaceae)	<i>Fraxinus excelsior</i>		トネリコ属	セイヨウト ネリコ	European ash	CABI, 2023; Carter, 1991	
モクセイ科 (Oleaceae)	<i>Jasminum mesnyi</i>		ソケイ属	ウンナンオ ウバイ	primrose jasmine	Carter, 1991	
モクセイ科 (Oleaceae)	<i>Ligustrum vulgare</i>		イボタノキ属	ヨウシュイ ボタ	common privet	CABI, 2023; Carter, 1991	
モクセイ科 (Oleaceae)	<i>Olea europaea</i>		オリーブ属	オリーブ	olive	Carter, 1991; Munkvold, 2001; Tosi and Natalini, 2009	
モクセイ科 (Oleaceae)	<i>Syringa vulgaris</i>		ハシドイ属	ムラサキハ シドイ	lilac	CABI, 2023; Carter, 1991	
ヤナギ科	<i>Populus nigra</i> var. <i>italica</i>	<i>P. italica</i>	ハコヤナギ属	セイヨウハ	Lombardy	Carter, 1991	

(Salicaceae)				コヤナギ	poplar		
ヤナギ科 (Salicaceae)	<i>Salix caprea</i>		ヤナギ属	サリックス・カプレア	pussy willow	CABI, 2023; Carter, 1991	
ヤナギ科 (Salicaceae)	<i>Salix lasiolepis</i>		ヤナギ属	サリックス・ラシオレピス	arroyo willow	Trouillas and Gubler, 2010; Trouillas et al., 2007	
ヤナギ科 (Salicaceae)	<i>Salix mucronata</i>		ヤナギ属	サリックス・マクロナタ		CABI, 2023; Moyo et al, 2018	
ユキノシタ科 (Saxifragaceae)	<i>Ribes nigrum</i>		スグリ属	クロスグリ	red currant	CABI, 2023; Carter, 1991	
ユキノシタ科 (Saxifragaceae)	<i>Ribes rubrum</i>	<i>R. petraeum</i>	スグリ属	フサスグリ、アカフサスグリ	flowering currant northern red currant	CABI, 2023; Carter, 1991	
ユキノシタ科 (Saxifragaceae)	<i>Ribes sanguineum</i>		スグリ属	ハナスグリ	redflower currant	CABI, 2023; Carter, 1991	
ユキノシタ科 (Saxifragaceae)	<i>Ribes uva-crispa</i>		スグリ属	セイヨウスグリ	gooseberry	CABI, 2023; Carter, 1991	

***Eutypa lata* の宿主植物に関連する経路の
年間輸入検査量（貨物、郵便物及び携帯品）**

(1) 栽植用植物

単位（数量）：本

植物名	生産国	発生国	2020		2021		2022	
			件数	数量	件数	数量	件数	数量
Ceanothus thyrsoiflorus(ティルソロールスイ(地上部))	ウガンダ	×	1	1,000				
Citrus limon(レモン)	ベトナム	×					1	92
	韓国	×					1	45
Cornus alba(シロミズキ)	フランス	○	1	500	3	699	3	1,450
Cornus sanguinea(サングイネ)	フランス	○	1	100				
Corylus avellana(セイヨウハシバミ)	イタリア	○	8	4,840	6	7,700	8	8,900
	フランス	○	6	2,348	8	3,313	1	80
	ニュージーランド	○			1	400	1	300
Cotoneaster(シャリントウ属(地上部))	ウガンダ	×	1	1,000				
Crataegus cuneata(サザシ)	中国	×			1	3		
Cydonia oblonga(マルメロ(地上部))	ペルー	×					1	6
Fagus sylvatica(ヨーロッパナ)	フランス	○	2	669			1	450
Ficus carica(イチジク(地上部))	アフガニスタン	×			1	21		
	アルバニア	×					16	240
	キプロス	○			17	93	21	216
	タイ	×	13	85	23	133	27	513
	ベトナム	×					1	370
	マルタ	×					1	80
	マレーシア	×					3	373

	韓国	×					1	10
	中国	×	1	3				
	米国	○			26	163	22	188
Ficus carica(イチジク)	アイルランド	○					1	636
	アルバニア	×					1	15
	オーストラリア	○					1	2
	オランダ	○	6	684	9	2,579	5	1,405
	キプロス	○					7	193
	タイ	×	7	34	19	108	37	528
	チェコ	○					2	10
	ニュージーランド	○					3	513
	フランス	○			1	50		
	ベトナム	×					2	2
	マレーシア	×					1	113
	韓国	×					1	10
米国	○			8	47	2	66	
Hedera helix(セイヨウウキヅタ(地上部))	ウガンダ	×	11	11,000				
	オランダ	○	3	70,000				
	グアテマラ	×	2	55,000	2	10,000		
	ケニア	×	7	1,400				
	スリランカ	×	60	24,600				
	ベトナム	×	3	8,000	25	96,200	62	265,740
	中国	×			7	41,000	6	128,001
Hedera helix(セイヨウウキヅタ)	スリランカ	×	15	162				
	ベトナム	×	3	13,500			8	20,200
	マレーシア	×	6	500	4	1,710		
	中国	×					4	70,822
Juglans regia(ハルシャケルミ)	オランダ	○			2	10		
Lantana camara(ランナ(地上部))	イスラエル	○	15	1,300	4	200		
	ケニア	×	68	29,690	125	61,415	117	49,780
	スリランカ	×	62	98,210	55	133,170		
	ニカラグア	×	3	300	5	450	7	700
Lantana camara(ランナ)	スリランカ	×			5	1,595	58	129,144
	ドイツ	○			4	416		
Malus pumila var.	オーストラリア	○			2	6	1	2

domestica(リンゴ (地上部))	タスマニア	×	2	10			8	24
	南アフリカ	○			1	13	2	6
Malus pumila(セイヨウリンゴ (地上部))	オーストラリア	○			7	21		
Olea europaea(オリーブ (地上部))	イタリア	○			1	100		
	スペイン	○	15	600				
Olea europaea(オリーブ)	イタリア	○	38	11,220	41	12,942	29	25,693
	オーストラリア	○					5	2,000
	スペイン	○	27	472	24	611	12	456
	チュニジア	×			4	1,000		
	トルコ	○	3	6,310	2	5,004	1	2,700
Pistacia lentiscus(ヒスタキア・レンティスクス)	スペイン	○	1	2,890	1	1,080		
Platanus acerifolia(モジバスターカケノキ)	スペイン	○			1	8		
Prunus cerasus(ミセイヨウミザクラ)	ドイツ	○					1	25
Prunus persica(モモ)	スペイン	○			1	20		
Prunus(サクラ属)	スペイン	○			5	20		
	フィリピン	×					1	20
	台湾	×			1	48		
Punica granatum(ザクロ)	スペイン	○	3	20	1	10	1	6
	ニューゼーランド	○	1	90	1	195		
	中国	×	12	2,415	11	2,098	7	2,750
Quercus robur(オクシュカラ)	オランダ	○					1	20
Quercus suber(コルクガシ)	オランダ	○			1	230		
	スペイン	○	1	10	1	26		
Quercus(コナラ属(カシ属))	スペイン	○	1	3				
Rosa chinensis(コウシンバラ(地上部))	オーストラリア	○					6	4,450
Rosa damascena(ダマスカバラ)	ブルガリア	○			2	3,000		

Rosa floribunda(ロサ・フロリバンダ(地上部))	米国	○	6	44				
Rosa multiflora(ロサ・ムルチフラ)	フランス	○			3	10,300	4	29,009
Rosa rugosa(ロサ・ルゴサ)	フランス	○	2	50				
	フランス	○					3	473
	中国	×			1	47		
Rosa wichuraiana(ロサ・ウィチュライアナ)	中国	×			1	100		
Rosa(ロサ属(地下部))	フランス	○	7	256				
Rosa(ロサ属(地上部))	フランス	○	144	4,918	108	2,612	100	1,670
	ケニア	×	33	656	33	330		
	デンマーク	×	35	35,815	7	2,917		
	ドイツ	○	70	1,255	84	1,588	88	1,589
	フランス	○	73	385	82	666	87	513
	英国	○	39	192	19	58		
	米国	○			6	57	52	358
Rosa(ロサ属)	フランス	○	420	43,262	340	41,740	364	34,210
	ケニア	×					13	312
	スリランカ	×	1	150				
	デンマーク	×	18	81	8	28	8	28
	ドイツ	○	13	650			13	625
	フランス	○	38	53			100	100
	ブルガリア	○			1	6		
	ベトナム	×			1	10		
	ベルギー	×	62	310	9	45	85	531
	英国	○	674	68,040	683	77,435	539	61,483
	韓国	×	1	3	6	18	5	15
	中国	×					1	4
Sambucus nigra(セイヨウニワトコ)	フランス	×	1	1,500				
	フランス	○	1	104	1	1,151	3	3,944
	英国	○					1	4
Schinus molle(シヨホク)	スペイン	○	1	30	1	30	3	34

Schinus terebinthifolius(アカツユ(サンヨウモトキ))	スペイン	○	1	10				
Syringa vulgaris(ムラサキバシトイ)	オランダ	○	6	180	4	130	6	180
Tamarix pentandra(ペンタンドラ)	スペイン	○			1	32		
Viburnum opulus(ヨウシュカンボク)	オランダ	○					1	500
Viburnum tinus(ヴァイブルナム・ティヌス)	オランダ	○	1	300				
Vitis vinifera(ヨーロッパブドウ(地上部))	米国	○	1	22	4	24	3	22
Vitis vinifera(ヨーロッパブドウ)	イタリア	○	1	100	6	150		
	スイス	○					1	25
	ドイツ	○	4	100			1	109
Vitis(ブドウ属(地上部))	ウズベキスタン	×					1	18
	韓国	×	3	117				
	米国	○					10	1,167
Vitis(ブドウ属)	イタリア	○	11	295				
	オーストラリア	○	26	130				
	ジョージア	×	4	100				
	ニューゼーランド	○	2	110	7	401		
	韓国	×	1	20			1	20
	米国	○	25	778	17	1,851	12	601

(2) 消費用生植物 (切り枝/花)

単位 (数量) : 本

植物名	生産国	発 生 国	2020		2021		2022	
			件数	数量	件数	数量	件数	数量
Acacia dealbata(アカシア)	イタリア	○			2	5,370	10	19,770
	フランス	○	1	50			2	600

Choisya temata(シヨウジ・ア・テルナタ)	オランダ	○			5	650		
Citrus limon(レモン)	ベトナム	×					1	7
Corylus avellana(セイヨウハシバミ)	米国	○					1	8
Fraxinus excelsior(セイヨウトネコ)	フィンランド	×					1	1
Genista(ヒツパエニシタ属)	イスラエル	○	1	100				
	イタリア	○	5	3,565	19	9,350		
Hedera helix(セイヨウキヅタ)	イタリア	○			7	550	1	32
	ケニア	×	1	14				
	フランス	○	1	100				
Olea europaea(オリーブ)	イタリア	○	13	4,900	8	7,100	1	300
	ギリシャ	○					1	1
	スペイン	○	1	1				
	ドイツ	○	1	6				
	ハワイ諸島	×					1	6
Pistacia lentiscus(ヒスタキア・レンティスクス)	イタリア	○			6	4,000	12	11,000
	オランダ	○			1	100		
	スペイン	○	13	950	28	1,610	16	950
	フランス	○	1	50				
Quercus palustris(ケルクス・パルストリス)	オランダ	○			6	1,700		
Quercus rubra(アカガシ)	オランダ	○	6	3,020	2	260		
Quercus(コナラ属(カシ属))	イタリア	○	1	300				
	オランダ	○	23	13,000	36	23,980	1	320
	ドイツ	○	1	400				
Rosa centifolia(セイヨウバラ)	韓国	×	2	15	69	1,393,817	100	1,533,981
Rosa rugosa(ハマナス)	台湾	×			1	20		
	中国	×			6	17,810	3	9,590
Rosa(バラ属(花のみ(茎葉なし)))	インド	○					1	5
	インドネシア	×	1	10			2	2
	エチオピア	×					5	54

	タイ	×	2	2			3	202
	ネパール	×			1	1	2	2
	ハワイ諸島	×					2	2
	ベトナム	×					2	19
	マラタ	×	1	1				
	米国	○					1	4
Rosa(バラ属)	アイルランド	○	1	1			1	12
	アラブ首長国連邦	×	8	15	3	17	7	13
	イタリヤ	×	1	1				
	インド	○	78	1,597,730	7	94,803	27	447,240
	インドネシア	×	3	18			7	135
	カンタ	×	134	1,781,220	229	2,808,660	150	2,924,800
	エクアドル	×	905	2,881,028	887	3,219,729	627	3,040,365
	エストニア	×					1	9
	エチオピア	×	621	7,851,515	503	8,423,946	444	6,502,374
	オーストラリア	○	7	48			3	24
	オーストリア	○	3	6				
	オランダ	○	407	150,369	371	125,248	167	40,672
	カザフスタン	×			1	5		
	カタール	×	2	2	1	1	1	50
	カンボジア	×	1	2				
	ギリシャ	○	1	2				
	ゲーム	×	4	282				
	ケニア	×	1,854	14,943,450	1,433	18,456,898	1,267	20,092,571
	コロンビア	×	1,458	3,116,039	1,437	3,255,070	1,203	2,608,431
	シンガポール	×	5	48			4	22
	スイス	○	1	1			1	1
	スリランカ	×			1	6		
	タイ	×	5	24	3	505	11	164
	ドイツ	○	5	84			5	7
	ネパール	×	2	3			9	27
	パキスタン	○					1	1
ハワイ諸島	×	2	13			4	116	
フィリピン	×	12	88	3	8	14	91	

	ブラジル	○					1	15
	ベトナム	×	12	8,630	144	129,186	171	146,531
	マルタ	×					1	3
	マレーシア	×	2	62	2	55	2	3
	ミャンマー	×					1	17
	メキシコ	○	1	300	1	520		
	モルデアイブ	×	1	1			1	40
	モロッコ	×			1	5		
	モンゴル	×	1	5			1	4
	ルワンダ	×	3	29,300	2	58,100		
	ロシア	×	23	23	1	11	1	12
	英国	○	4	23			5	48
	韓国	×	139	2,379,874	32	551,342	55	85,642
	香港	×	1	1	2	4	2	4
	台湾	×	4	28			6	33
	中国	×	91	944,080	72	571,434	54	277,027
	米国	○			1	1	3	15
Schinus molle(コショホク)	ペルー	×	1	28,320	3	160,320	3	273,600
Syringa vulgaris(ムラサキバトイ)	フランス	○	7	560	1	10	2	180
Viburnum opulus(ヨウシュカンボク)	イタリア	○			1	50		
	フランス	○	40	2,040	56	2,810	42	1,830
	ドイツ	○					2	40
	ニュージーランド	○	4	1,365				
	南アフリカ	○			3	2,050	1	600
Viburnum tinus(ワイルドローズ)	イタリア	○	6	600	14	5,950	13	5,500
	フランス	○					1	25
	フランス	○	1	50				
	南アフリカ	○			6	4,200		

(3) 木材

単位(数量): m³

植物名	生産国	発生国	2020		2021		2022	
			件数	数量	件数	数量	件数	数量

Acer macrophyllum(ヒコハカエデ)	米国	○	1	5				
Carpinus betulus(セイヨウシデ)	クロアチア	×			1	2	1	6
Fagus sylvatica(ヨーロッパナ)	クロアチア	×	1	33	4	110	4	87
	スペイン	×	7	244	5	159	3	150
	ドイツ	○	5	135	6	186	5	210
Fraxinus excelsior(セイヨウトリコ)	スペイン	○			1	2	1	41
	フランス	○					2	56
	ポルトガル	○					2	77
	ルーマニア	○	1	11				
Juglans regia(ヘルクシヤグミ)	イタリア	○			1	4		
	米国	○					1	3
Prunus avium(サクランボ(カンカウツウ))	米国	○	2	27				
Prunus(サクランボ属)	オーストリア	○	1	24			1	26
	ルーマニア	○	1	2				
	米国	○	94	2,199	53	1,469	64	1,210
Quercus alba(クエルクス・アルバ)	米国	○	50	616	62	826	82	1,211
Quercus macrocarpa(マクマカルパ)	セルビア	○			1	22		
	フランス	○			3	98		
	米国	○	259	10,475	174	6,655	234	7,356
Quercus mongolica(モンゴリアク)	ロシア	×			2	68		
Quercus robur(オクシュウク)	フランス	○					3	93
	ルーマニア	○	1	6				
	米国	○			1	47		
Quercus rubra(アカガシ)	米国	○	18	307	20	267	34	869
Quercus(コナラ属(カシ属))	オーストリア	○	3	746	6	880	5	717
	クロアチア	×	5	662	4	192	2	131
	スペイン	○			1	12		
	スペイン	×			1	42		
	ドイツ	○	2	22	1	44		
	フランス	○	4	148	1	24	14	483

	ブルガリア	○			1	20		
	ベルギー	×	1	25	2	49	3	136
	ポーランド	×	2	80			4	217
	ルーマニア	○	3	75	3	76		
	ロシア	×	4	286				
	米国	○	33	1,026	14	634	20	608
Tilia cordata(コハシナキ)	ブルガリア	○			1	28		
	ルーマニア	○	1	34				

(4) 消費用乾燥植物類

単位(数量): kg

植物名	生産国	発 生 国	2020		2021		2022	
			件数	数量	件数	数量	件数	数量
Acacia dealbata(アセアシア)	ベトナム	×			6	64,678	2	12,500
Aesculus californica(アエスクルス・カリフォルニカ)	米国	○			1	1		
Ceanothus americanum(セノサ)	中国	×			1	8		
Citrus limon(レモン)	イスラエル	○	1	140				
	イタリア	○	1	6,160				
	イラン	×	1	225	2	418		
	インド	○					2	2
	エジプト	×			1	1		
	オーストラリア	○	1	5			1	2
	オーストリア	○					1	1
	カンボジア	×	1	1	2	2	2	2
	シンガポール	×					1	1
	スペイン	○	4	23,116	7	60,887	8	90,320
	タイ	×	1	1	2	2	6	6
	タンザニア	×			1	40	2	101
	チリ	○	2	36,546	3	34,596	3	17,490
	トルコ	○	2	10,082	1	18,000	3	18,005
	ニュージーランド	○	5	102,367	4	87,024	6	132,440

	パール	×					1	1
	パラグアイ	×					2	303
	フィリピン	×			1	1		
	ベトナム	×	4	4	6	6	38	45
	マダガスカル	×			1	1		
	ミャンマー	×			1	1	1	1
	モロッコ	×	3	40,176	1	6		
	オース	×					1	1
	英国	○	1	1	1	1	1	1
	中国	×	1	1			6	6
	南アフリカ	○	2	4,904	2	25,739	1	4,380
	米国	○	4	28,419	3	95,101	1	46
Corylus avellana(セイヨウハシ バミ)	ドイツ	○	2	2				
	英国	○			1	1		
Crataegus cuneata(サザシ)	アルバニア	×			2	31		
	セルビア	○					1	1
	台湾	×	1	2				
	中国	×	2	2	1	2		
Crataegus monogyna(セイヨウサ ザシ)	アルバニア	×			1	1		
	フランス	○					1	3
	ブルガリア	○	1	63			1	50
	ポーランド	×					1	10
Crataegus(サザシ 属粉・破砕)	アルバニア	×			1	10		
Crataegus(サザシ 属)	アルバニア	×	2	51			2	315
	クロアチア	×			1	100		
	コソボ	×					1	150
	スペイン	○					1	60
	ギリ	○	4	285	4	405		
	フランス	○			1	2		
	ブルガリア	○	1	1	2	100		
	ポーランド	×	1	1				
	中国	×	2	14			2	22
	米国	○					3	3
Cydonia oblonga(マルメロ)	インド	○	11	12,245	15	15,002	16	16,050

Diospyros kaki(カキ)	フィリピン	×	1	1				
	フランス	○			1	1		
	中国	×	12	19,178	11	13,643	8	7,634
Eriobotrya japonica(ヒメナ)	台湾	×			1	10		
	中国	×	21	24,025	19	23,455	12	19,857
	米国	○	1	1			1	1
Fagus sylvatica(ヨーロッパナ)	イタリア	○	9	466	12	332		
	オランダ	○			1	1		
Fraxinus excelsior(セイヨウトネコ)	ドイツ	○			2	10		
	フィンランド	×					1	1
Hedera helix(セイヨウハジゲ)	オーストラリア	○	1	2				
	ドイツ	○	2	26				
Juglans regia(ヘルクシャクルミ 粉・破碎)	ドイツ	○			1	50		
	中国	×	1	9,000			1	5,000
Juglans regia(ヘルクシャクルミ(殻) 粉・破碎)	ドイツ	○					1	50
	ベトナム	×	10	240,000	12	240,000	13	309,000
	中国	×	22	272,181	19	254,590	19	273,200
	米国	○	21	818,278	32	1,057,774	23	698,530
Juglans regia(ヘルクシャクルミ(殻))	米国	○			1	69		
Juglans regia(ヘルクシャクルミ(燃料用(バイオマス燃料用)) チップ)	米国	○	1	2				
Juglans regia(ヘルクシャクルミ(燃料用(バイオマス燃料用)) 粉・破碎)	米国	○	1	1	1	24		
Juglans regia(ヘルクシャクルミ)	ドイツ	○					1	25
	フランス	○	1	1				
	ベトナム	×			1	1	1	1
	英国	○	3	250				
	中国	×			1	111	1	358
	米国	○					1	1
Malus pumila var. domestica(リンゴ キューブ・ヘレット)	中国	×	2	78,000	5	127,600	3	78,000
	ポーランド	×	1	1				

Malus pumila var. domestica(リンゴ 粕)	中国	×	10	413,000	11	432,400	11	389,000
Malus pumila var. domestica(リンゴ)	オーストリア	○	2	5,040	1	3,270	1	2,250
	ドイツ	○	1	1	2	60		
	ラトビア	×			1	1		
	ロシア	×			1	1		
	韓国	×	1	2			1	15
	中国	×	4	52,461	3	52,456	4	55,332
	米国	○					2	2
Malus pumila(セイヨウリンゴ)	中国	×			1	1,298		
Malus(リンゴ属 粕)	ポーランド	×			1	9,000		
	中国	×	20	825,800	25	941,200	28	849,400
Malus(リンゴ属 粉・破碎)	中国	×	1	360				
Malus(リンゴ属)	アルバニア	×			1	10		
	ドイツ	○	1	1	1	1,000		
	ベトナム	×			1	2		
	ラトビア	×			1	1		
	中国	×	3	7,209	7	8,675	6	5,736
	南アフリカ	○			1	100		
	米国	○	1	1	1	76		
Olea europaea(オリーブ キューブ・ペレット)	スペイン	○	1	2				
Olea europaea(オリーブ 粕)	ギリシャ	○	1	20,200	1	21,000	1	43,200
	スペイン	○					1	2
	米国	○	19	388,535	17	328,338	12	258,449
Olea europaea(オリーブ 粉・破碎)	ギリシャ	○	1	5				
	スペイン	○					1	4,000
	チェルジア	×	1	280	1	1		
	フランス	○	1	102,000				
Olea europaea(オリーブ(燃料用(バイオマス燃料用)) 粕)	ギリシャ	○			1	1		
Olea europaea(オリーブ)	イタリア	○					1	210
	ギリシャ	○	2	133	3	103		

	スペイン	○	2	337			1	2
	チュニジア	×	1	120	5	280	7	2,612
	トルコ	○	1	1			1	1
	フィンランド	×					1	3
	フランス	○	1	1	1	2	1	20
	マルタ	×					1	1
	モロッコ	×	2	351	1	1	1	280
	南アフリカ	○	1	2				
	米国	○			1	3		
Pistacia terebinthus(テルビソノキ)	トルコ	○					4	5
Pistacia vera(ピスタチオノキ)	イラン	×					1	1,000
	中国	×			1	1		
Prunus americana(アメリカスモモ)	シンガポール	×	1	1				
Prunus armeniaca var. ansu(アンズ(殻)粉・破碎)	南アフリカ	○	1	6,000	1	4,000	1	4,000
Prunus armeniaca var. ansu(アンズ)	トルコ	○	1	10	2	18	3	89
	ボリビア	×					1	2
	香港	×	1	1			1	1
	台湾	×			1	1		
	中国	×	11	12,981	6	3,605	3	1,202
Prunus armeniaca(ホアンズ(殻)粉・破碎)	南アフリカ	○	3	8,000	2	6,000	3	10,000
Prunus armeniaca(ホアンズ)	ウズベキスタン	×			1	1	1	1
	マレーシア	×					1	1
	韓国	×					1	1
	香港	×					2	2
	台湾	×			1	408		
	中国	×	13	85,673	15	81,217	12	79,740
	米国	○					1	1
	イタリ	○					1	3

Prunus avium(サクラボ (カンカオウトウ))	スイス	○					2	14
	ドイツ	○			1	8	1	1
	トルコ	○			1	1		
	フランス	○	1	1				
	ベルギー	×	1	626	3	3,966	2	3,089
	ポーランド	×	1	8				
	米国	○					1	1
Prunus cerasus(スミセイヨウミザクラ)	ウズベキスタン	×			1	2	4	21
	ポーランド	×			2	162		
Prunus persica var. nucipersica(ネクタリン)	中国	×	2	20,000	1	10,000	1	10,050
Prunus persica(扁桃(殻)粉・破碎)	中国	×	2	2,525	1	2,000	1	15,250
	南アフリカ	○	4	54,000	7	94,000	6	125,400
Prunus persica(扁桃(燃料用(バイオマス燃料用)))	米国	○	1	1				
Prunus persica(扁桃)	ウズベキスタン	×			1	1		
	トルコ	○			1	1		
	ベトナム	×					1	1
	英国	○					1	8
	韓国	×			1	1		
	中国	×	26	98,361	32	175,124	36	170,932
	米国	○			2	2		
Prunus(サクラ属 粕)	米国	○	1	20,421				
Prunus(サクラ属)	ラトビア	×			1	1	1	10
	台湾	×	1	1				
	中国	×	17	28,541	14	15,532	15	26,974
	米国	○	1	1	1	141		
Punica granatum(ザクロ)	アフガニスタン	×					1	54
	イラン	×	1	1	1	4		
	インド	○	4	573	8	1,493	6	956
	ウズベキスタン	×	2	2	1	3	1	290
	ケニア	×					1	2

	スリランカ	×					1	1
	トルコ	○					1	1
	ネパール	×					1	1
	パキスタン	○			1	1		
	ベトナム	×					2	2
	ヨルダン	×	1	1				
	中国	×	2	300	2	230	1	1
Pyrus communis var. sativa(セイヨウナシ)	オーストラリア	○					1	20
Quercus acutissima(クヌギ 粉・破碎)	中国	×			2	32,800		
Quercus acutissima(クヌギ)	リトアニア	×			1	75		
	中国	×	2	42,419	1	420	1	296
Quercus dentata(かし)	ラトビア	×	1	2	1	1		
	ロシア	×					1	5
	韓国	×	1	2				
	中国	×			1	1	1	1
Quercus mongolica var. grosseserrata(ミ スナ)	ロシア	×			1	1		
Quercus robur(オ シウナ)	イタリア	○			3	73		
	ラトビア	×			1	2		
	リトアニア	×	4	85				
	米国	○					1	7
Quercus rubra(アカ かし)	ウクライナ	○			1	8		
	エストニア	×			1	17		
Quercus salicina(ヤギかし)	韓国	×	1	1				
Quercus serrata(コナ)	ラトビア	×					31	31
Quercus suber(コ ルク)	ポルトガル	○	1	1,080	5	9,196	4	5,277
	中国	×					1	300
Quercus(コナ属(カ シ属) その他加工 品)	リトアニア	×	1	44,760	2	48,000	2	49,500
	オーストラリア	○	1	60,000				

Quercus(コナ属(カシ属)(燃料用(バニマス燃料用)) ^ レット)	ベトナム	×	2	1,031,290				
Quercus(コナ属(カシ属))	イタリア	○	3	13	3	185		
	インド	○			1	60		
	ウクライナ	○					1	3
	エストニア	×			6	247		
	カナダ	○			1	1		
	チュニジア	×					1	1
	フィリピン	×			1	3		
	フィンランド	×					1	1
	ポルトガル	○			2	9		
	マレーシア	×					1	1
	ラトビア	×			5	63	10	169
	リトアニア	×			1	20		
	ロシア	×	1	1	1	3	2	31
	台湾	×					1	1
	中国	×			1	89	1	354
米国	○	1	1			2	5	
Rhamnus(クワズノキ属)	スーダン	×	1	1				
	米国	○	1	1			1	1
Ribes nigrum(クワサガリ)	ギリシャ	○	16	189	15	213	9	173
	英国	○			1	2		
Ribes(スガリ属(カーラント))	モンゴル	×	1	1				
	ロシア	×			1	1		
Rosa canina(トウカニ)	イラン	×			1	1		
	セルビア	○	1	3	1	90	7	193
	チリ	○	8	3,339	8	4,517	5	5,270
	ルーマニア	○	1	10	1	10		
	南アフリカ	○			1	1		
米国	○	1	7					
Rosa centifolia(セイヨウバラ)	イラン	×			1,289	1,576	4	145
	インド	○			1	7	1	4
	モロッコ	×	1	40				
	中国	×			1	404		

Rosa damascena(ダマスカバラ粉・破碎)	ブルガリア	○	1	1				
Rosa damascena(ダマスカバラ)	イラン	×	1	6	2	40	6	97
	インド	○			1	10	1	12
	オーストラリア	○	2	37				
	フランス	○			1	1		
	ブルガリア	○	4	196	3	210		
	モロッコ	×	2	234	1	15	1	250
Rosa gallica(ガリカ)	オーストラリア	○	1	1				
	シリア	×	1	1				
	パキスタン	○	1	3,240	1	3,300		
Rosa laevigata(チニイバラ)	中国	×			1	1		
Rosa moschata(モスクータ)	チリ	○					1	8
Rosa rugosa var. plena(マイカイ)	中国	×	2	711	1	328		
Rosa rugosa(ハマナス)	チリ	○	1	10,000				
	ブルガリア	○			1	10,000		
	中国	×			1	1	1	1
Rosa(バラ属粉・破碎)	中国	×	1	500				
Rosa(バラ属)	アイルランド	○	3	3				
	アラブ首長国連邦	×			1	1	1	1
	アルゼンチン	×	1	1	1	20,000	1	20,000
	アルバニア	×	2	360				
	イスラエル	○	1	1				
	イタリア	○	1	1				
	イラン	×	1	1	7	160	18	355
	インド	○			2	2	3	1,236
	ウクライナ	○			1	1		
	ウズベキスタン	×			1	1		
	エクアドル	×	28	3,075	38	4,630	31	5,695
	エジプト	×			1	1		
	オーストラリア	○	3	39			1	1

オマーン	×					1	1
カタール	×	2	2				
カナダ	○					1	1
ケニア	×	2	5	14	20	11	12
コロンビア	×	10	2,993	11	3,352	11	2,684
サウジアラビア	×			1	1		
シンガポール	×	2	2	1	1		
スイス	○	1	1			1	1
スウェーデン	×					1	1
スーダン	×	1	1				
セルビア	○					6	17
タイ	×	1	2	4	87	1	1
チリ	○	23	63,505	24	200,786	21	435,831
ドイツ	○	1	1	2	3		
トルコ	○			1	1		
パキスタン	○	10	1,253	4	6	10	33
ハワイ諸島	×					1	1
ハンガリー	○	1	1				
バングラデシュ	×					1	1
フィリピン	×	1	1	1	1	1	1
ブラジル	○	1	1				
フランス	○	2	11	3	3	6	15
ブルガリア	○	5	12	8	334	6	168
ベトナム	×	1	1	1	1	1	5
ベルギー	×			1	1		
ポーランド	×			1	1		
ミャンマー	×					1	1
モロッコ	×	2	101	1	2	3	102
ラトビア	×					1	15
ルーマニア	○					1	60
リト	×	1	1				
ロシア	×			1	1		
英国	○					3	7
韓国	×	1	1			3	3

	香港	×	3	8	1	1	2	3
	台湾	×	5	5	2	3	1	1
	中国	×	22	433	33	18,323	42	14,550
	南アフリカ	○	1	1			1	49
	米国	○	4	4	13	18	10	13
Sambucus nigra(セイウチノトコ)	アルバニア	×	2	194	3	266		
	ウクライナ	○	2	2			3	2,153
	オーストラリア	○	1	1			1	1
	クロアチア	×					1	40
	コソボ	×			1	230		
	セルビア	○			1	50		
	フランス	○					1	2
	ブルガリア	○					1	55
	ポーランド	×	4	2,312	3	104	4	7
	ルーマニア	○			1	102		
	米国	○	2	6			1	4
Schinus molle(コン ヨウボク)	アイルランド	○			1	1		
	アラブ首長 国連邦	×					1	1
	イタリア	○					1	1
	エチオピア	×			1	5		
	オーストラリア	○			1	3		
	オランダ	○	1	3				
	ギリシャ	○					1	1
	タイ	×					1	1
	パール	×			2	47	1	1
	フィンランド	×			1	1		
	ブラジル	○	2	1,601	3	1,922	3	3,202
	フランス	○	1	1				
	ペルー	×	1	500	5	2,841	2	1,800
	マダガスカル	×	7	487	7	2,292	3	2,720
	レユニオン	×			1	1		
	英国	○					1	1
米国	○			1	1	2	2	
	ブラジル	○			1	1	1	1

Schinus terebinthifolius(アカ ツ(サンショウモトキ))	マダガスカル	×	1	1,100	4	3,700	4	9,710
	レユニオン	×			1	1		
	英国	○					1	1
Sorbus aucuparia(ヨーロッパ ナカマツ)	ドイツ	○			1	3		
Tilia cordata(コハク シナギ)	ウクライナ	○	1	300			1	500
	コソボ	×	1	50				
	ブルガリア	○	3	12,000	1	1,800		
	ホスニア・ヘル ツェゴビナ	×					1	50
Viburnum opulus(ヨーロッパ 粉・破碎)	米国	○			1	5		
Vitis vinifera(ヨーロッパ ブドウ)	イタリア	○			1	1	1	10
	スペイン	○	1	304	3	451	2	122
	チリ	○	1	3				
	トルコ	○			1	1		
Vitis(ブドウ属 粕)	オーストラリア	○	2	34,980	1	24,900	1	24,320
	米国	○			2	20,958	2	10,570
Vitis(ブドウ属)	アルゼンチン	×					1	1
	イタリア	○	3	11	9	16	7	14
	インド	○	1	23				
	ウズベキスタ ン	×			3	3		
	スペイン	○	1	1	1	2		
	タイ	×			1	1		
	トルコ	○					1	1
	フィリピン	×					1	1
	フランス	○					1	2
	ブルガリア	○	1	1				
	中国	×			2	80	1	71
	米国	○	2	689	1	1	2	249

引用文献

- BAPHIQ (2023) 中華民國輸入植物或植物產品檢疫規定. (online), available from <<https://www.baphiq.gov.tw/ws.php?id=21725>>, (accessed 2023-10-18).
- Brenckle, J. F. (1917) North Dakota fungi – I. Mycologia 9: 275-293.
- CABI (2023) *Eutypa lata*. In: Crop Protection Compendium. Wallingford, UK: CAB International. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (accessed 2023-05-08).
- Carter, M. V. (1991) The Status of *Eutypa lata* as a Pathogen. Phytopathological Paper No. 32. CAB International, Wallingford, UK.
- Carter, M. V., A. Bolay and F. Rappaz (1983) An annotated host list and bibliography of *Eutypa armeniacae*. Review of Plant Pathology 62: 251-258.
- 中華人民共和國 (2023) 中華人民共和國進境植物檢疫性有害生物名錄(2021年4月9日更新). (online), available from <<https://www.ippc.int/en/countries/china/reportingobligation/2012/12/moa-announcement-no862list-of-regulated-pest-of-china/>>, (accessed 2023-10-18).
- DAC & FW (2021) The Plant Quarantine (Regulation of Import into India) Order, 2003. (dated 10th December, 2021).
- Diekmann, M. and C. A. J. Putter (1996) Stone fruits. FAO/IPGRI Technical Guidelines for the Safe Movement of Germplasm. No. 16.
- Eichmeier, A., J. Pecenka, M. Spetik, T. Necas, I. Ondrasek, J. Armengol, M. Leon, C. Berlanas and D. Gramaje (2020) Fungal trunk pathogens associated with *Juglans regia* in the Czech Republic. Plant disease 104: 761-771.
- EPPO (2023) PQR-EPPO database on quarantine pests. (online), available from <<http://www.eppo.int>>, (accessed 2023-05-08).
- Farr, D. F. and A. Y. Rossman (2023) Fungal Databases, U. S. National Fungus Collections, ARS, USDA. (online), available from <<https://nt.ars-grin.gov/fungalDATABASES/>>, (accessed 2023-12-22).
- Gainza-Cortes, F., R. R. Rosa, P. Arrano-Salinas, P. Rodriguez-Herrera, M. A. Lolas, J. C. Caris-Maldonado, J. C., ILVA-FLORES, P. and A. Gonzalez (2020) Distribution of three grapevine trunk pathogens in Chilean vineyards, determined using molecular detection from asymptomatic woody pruning material. Phytopathologia Mediterranea 59: 503-513.
- Grinbergs, D., J. Chilian and A. France (2021) First report of *Eutypa lata* causing cankers and dieback in sweet cherry in Chile. Plant Disease 105: 3307.
- Hilton, J. and D. Mollov (2012) *Eutypa* Dieback. GRAPE IPM GUIDE FOR MINNESOTA PRODUCERS: 15-16. (online), available from <<https://core.ac.uk/download/pdf/76349626.pdf>>, (accessed 2023-05-11).
- Index Fungorum (2023) *Eutypa lata*. (online), available from <<http://indexfungorum.org/Names/Names.asp>>, (accessed 2023-05-08).
- Lecomte, P. and D. J. Bailey (2011) Studies on the infestation by *Eutypa lata* of grapevine spring wounds. Vitis 50: 35-41. (online), available from <https://www.researchgate.net/publication/265947378_Studies_on_the_infestation_by_Eutypa_lata_of_grapevine_spring_wounds>, (accessed 2023-05-11).
- Lecomte P., J-P. Peros, D. Blancard, N. Bastien, C. Delye (2000) PCR assays that identify the grapevine dieback fungus *Eutypa lata*. Applied and Environmental Microbiology 66: 4475-

4480.

- Lolas, M. A., A. Castro, R. Polanco, F. Gainza-Cortés, E. Ferrada, M. R. Sosnowski and G. A. Díaz (2020) First report of *Eutypa lata* causing dieback of grapevines (*Vitis vinifera*) in Chile. *Plant Disease* 104: 2024.
- Moyo, P., L. Mostert, R. Dedekind, W. J. van Jaarsveld, R. Pierron and F. Halleen (2018) First report of *Eutypa lata* causing branch dieback and cankers on cape willow in South Africa. *Plant Disease* 102: 2033.
- Munkvold G. P. (2001) *Eutypa* Dieback of Grapevine and Apricot. *Plant Health Progress*. (online), available from <<http://www.plantmanagementnetwork.org/pub/php/diagnosticguide/dieback/>>, (accessed 2023-05-11).
- NBN Gateway (2023) National Biodiversity Network, (online), available from <<https://data.nbn.org.uk/Taxa/NHMSYS0001482039>>, (accessed 2023-05-08).
- Nordén, B. and J. B. Jordal (2015) A checklist of Norwegian Sordariomycetes. *Agarica*: 55-73.
- 農林省 (1950) 植物防疫法施行規則 (昭和 25 年農林省令第 73 号) .
- 農林省 (1968) 隔離栽培運用基準 (昭和 43 年 5 月 20 日付け 43 農政 B 第 916 号農政局長通達) .
- Octave, S., P. Fleurat-Lessard and G. Roblin (2009) Diagnosis of *Eutypa lata* infection in grapevines by serological detection of secreted polypeptides. *Journal of Plant Pathology* 91: 321-330.
- Rolshausen, P. E., L. C. Greve, J. M. Lavavitch, N. E. Mahoney, R. J. Molyneux and W. D. Gubler (2007) Pathogenesis of *Eutypa lata* in grapevine: Identification of virulence factors and biochemical characterization of cordon dieback. *Phytopathology* 98: 222-229.
- Rolshausen, P. E., F. Trouillas and W. D. Gubler (2004) Identification of *Eutypa lata* by PCR-RFLP. *The American Phytopathological Society* 88: 925-929.
- Rumbos, C. I. (1986) Isolation and identification of *Eutypa lata* from *Pistacia vera* in Greece. *Journal of Phytopathology* 116: 352-357. (online), available from <<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1439-0434.1986.tb00931.x/abstract>>, (accessed 2023-05-11).
- Schwappach, P. and M. Grimm (2006) First detection of *Eutypa lata* (Pers.:Fr.) Tul. with PCR directly out of grapevine trunks in Germany. *IOBC wprs Bulletin* 29: 103-108.
- Smith, R. J., L. J. Bettiga, W. D. Gubler and A. Eskalen (2023) *Eutypa* Dieback. UC IPM Pest Management Guidelines: Grape, UC ANR Publication 3448, University of California Agriculture and Natural Resources. (online), available from <<http://www.ipm.ucdavis.edu/PMG/r302100611.html>>, (accessed 2023-10-19).
- Sosnowski, M. R., S. Q. Dinh and M. J. Sandow (2020) First report of *Eutypa lata* causing dieback and wood canker of pomegranate (*Punica granatum*) in Australia. *Plant Disease* 104: 568.
- Teviotdale, B. L., T. J. Michailides and J. MacDonald (2001) Diseases of Pistachio. APS. (online), available from <<https://www.apsnet.org/edcenter/resources/commonnames/Pages/Pistachio.aspx>>, (accessed 2023-05-11).
- Tosi, L and G. Natalini (2009) First report of *Eutypa lata* causing dieback of olive trees in Italy. *Plant Pathology* 58: 398.
- Trouillas, P., W. D. Gubler and E. A. Weber (2007) Cordon and trunk dieback of grapevine in California: importance of *Eutypa lata* and other diatrypaceous fungi, epidemiology and control. *Proceedings of the 1st Annual National Viticulture Research Conference*: 98-99.
- Trouillas, F. P. and W. D. Gubler (2010) Host range, biological variation, and phylogenetic diversity of

Eutypa lata in California. *Phytopathology* 100: 1048-1056.

Wenneker, M., M. M. J. P. van Raak, I. R. van Brouwershaven, W. Martin, and L. F. F. Kox (2011)
Eutypa lata, the causal agent of dieback in red currant (*Ribes rubrum*) and gooseberry (*R. uva-*
crispa) in the Netherlands. *European Journal of Plant Pathology* 131: 441-449.